

国際化学肥料ニュース（2023年10月）

肥料業界の2023年10月動態

- * 10月5日、インド IPL 社は新しい尿素国際入札を発表した。10月20日締め切りと開札、購買数量未定、12月10日までに船積みという条件だけである。これは今年インド5回目の尿素国際入札である。

- * 9月20日、バングラデシュ政府は5件計19万トン化学肥料の輸入に外貨を支出する案件を許可した。その内容は BCIC 社（バングラデシュ国営化学工業）のサウジアラビア SABIC から3万トン尿素（FOB365ドル/トン）、KAFCO から3万トン尿素（FOB307.12ドル/トン）、BADC 社（バングラデシュ国営農業発展）のモロッコ OCP 社から3万トン重過石（FOB394ドル/トン）、カナダから2件それぞれ5万トンの計10万トン塩化加里（FOB327.75ドル/トン）の輸入である。

- * ロシア政府の公式ホームページによれば、ロシア政府は今年6月～11月化学肥料輸出割当数量を220万トン増やして、計1850万トンになる。ロシアは2021年12月1日から化学肥料の輸出を規制し、すでに数回延長した。5月末に発表された政府命令では化学肥料の輸出規制が11月30日まで延長し、輸出割当数量1630万トンとした。

- * 10月7日からイスラエルとハマスの軍事衝突によって、イスラエル産加里の主な輸出港 Ashdod 港が影響を受けて、一部の港湾機能が停滞している模様。イスラエル ICL 社は年間加里生産量約400万トン、世界加里供給量の約3%を占めている。衝突開始後、加里供給不足による価格高騰の可能性があり、加里メーカー Mosaic 社の株価が7%も上昇し、同じ加里メーカーの Nutrien 社の株価も昨年7月以来の最高値を更新した。また、世界最大の加里輸出元として、カナダの Canpotex 社は15日に12月31日までに加里の出荷を全力で取り組むことを表明した。

- * 10月第1週と第2週（10月2日～15日）の尿素国際相場が安定している。10月5日インド IPL 社の新しい尿素国際入札の影響は中東産尿素にしか及ばないようである。

- * ロシア連邦統計局の最新レポートによれば、ロシア2023年1～8月の化学肥料生産量が前年同期より3.9%増の1670万トン（N、P₂O₅、K₂O 換算、以下同）。そのうち窒素肥料生産量が4%増の820万トン、りん酸肥料生産量が0.3%増の290万トン、加里肥料生産量が5.7%増の550万トン。

* 10月に入って、硫安の国際価格が高値を続けている。中国尿素の輸出規制が強化されているため、硫安への需要が増え、FOB 価格が小幅に上昇した。EUはカプロラクタムの生産再開により、硫安産出量が増えたが、需要が多いので、価格が安定している。

下記の表は主要地域の10月第1週と第2週の硫安価格（ドル/トン）を示す。

種 類	10月9～15日	10月2～8日
中国カプロラクタム副生硫安（FOB）	165～170	163～170
中国ブリケット粒状品（FOB）	190～195	190～195
EUカプロラクタム副生硫安粒状品（FOB）	275～338	283～336
EUカプロラクタム副生硫安粉品（FOB）	201～233	194～242
アジアカプロラクタム副生硫安（CFR）	192～195	192～195
ブラジルカプロラクタム副生硫安（CFR）	195～200	195～200
ブラジルブリケット粒状品（CFR）	215～224	215～220

* 中国税関の速報によれば、2023年9月中国化学肥料輸出量が20.1%増の377万トン、その内訳は尿素が240%増の119万トン、硫安が11.6%減の138万トン、DAPが23.4%減の36万トン、MAPが62.5%減の9万トン、月単位としての尿素輸出量が新記録を樹立した。尿素輸出量急増の理由は、インドIPL社が7月末に行った尿素国際入札に中国尿素が112万トンも落札され、それが集中的に輸出されたためである。

9月の中国化学肥料輸入量が59.7%増の115万トン、その内訳は塩化加里が64.1%増の105万トン、NPK化成肥料が80%増の9万トン。

* インドIPL社が10月5日に行った尿素国際入札は10月20日に開札された。21社応札、応札量は西海岸207.10万トン、東海岸192.90万トン、工場直出荷量4.5万トンの合計404.49万トン、最低応札価格はAmeropa社のCFR西海岸400ドル/トンと東海岸404ドル/トン、9月15日開札された前回の尿素国際入札と同程度である。

* 10月第3週（16～22日）の尿素国際相場が安定している。インドIPL社の尿素国際入札があるにもかかわらず、中国、東南アジア、中東のFOB 価格が小幅に下がった。ほかの地域では価格の変動がなく、サプライヤーとバイヤーはインド尿素入札の開札結果を見てから対応する状態である。

* インドIPL社が10月20日に開札された尿素国際入札について、IPL社は最低応札価格CFR400～404ドル/トンで170万トン弱の購入で契約することになる。そのうちの1/3以上が中東産で、残りは北アフリカとロシア産で、インドネシア産大粒尿素20万トンも入っている。中国産尿素の落札量が少量に留まっている。

* 10月第4週（23～29日）の尿素国際相場が大幅に下がった。インドIPL社の尿素国際入札の結果を見て、中東尿素がFOB380ドル/トン、エジプト大粒尿素がFOB375～

380 ドル／トン、ロシア尿素が FOB340 ドル／トン以下になった。また、インドネシア Pupuk 社の大粒尿素販売入札には FOB381.50 ドル／トンしかなかった。ナイジェリアの尿素プラントが正常に稼働して、南米向けに FOB360～370 ドル／トンで販売している。

- * 中国窒素肥料工業協会は 10 月 26～27 日に開催された 2023 年秋季全国窒素肥料市場検討会に於いて、2023 年に中国の尿素新規生産能力 330 万トン増加し、尿素生産能力 6674 万トン、実生産量が 5.9%増の 6100 万トンに達するが、国内肥料用尿素消費量 3350 万トン、農業以外の尿素消費量 2050 万トンの計 5400 万トンしかなく、700 万トン以上が輸出などに活路を見出さなければならないと報告している。

中国 2023 年第 4 四半期の尿素生産量 1470 万トン、2024 年第 1 四半期の尿素生産量 1560 万トン、合計 3030 万トンに達し、この期間の尿素需要量が約 2700 万トンしかないことも指摘して、春シーズンに向けて尿素価格が高騰する可能性がないことも強調された。また、2024 年にアンモニアの新規増加生産能力 590 万トン、尿素新規増加生産能力 826 万トンの予測があり、窒素肥料の生産能力過剰がさらに顕著となる恐れがあるとも述べた。

- * 10 月第 3 週と第 4 週の硫安国際価格が高値安定を続けている。中国硫安の輸出が順調で、FOB 価格が小幅に下落した。EU は硫安生産が安定しているが、需要が多いので、価格が若干上がっている。

下記の表は主要地域の 10 月第 3 週と第 4 週の硫安価格（ドル／トン）を示す。

種 類	10 月 23～29 日	10 月 16～22 日
中国カプロラクタム副生硫安（FOB）	160～165	165～168
中国ブリケット粒状品（FOB）	185～192	190～195
EU カプロラクタム副生硫安粒状品（FOB）	275～338	275～338
EU カプロラクタム副生硫安粉品（FOB）	212～233	201～233
アジアカプロラクタム副生硫安（CFR）	185～190	185～190
ブラジルカプロラクタム副生硫安（CFR）	190～195	195～200
ブラジルブリケット粒状品（CFR）	207～215	217～220

- * 世界最大の鉱山メーカーBHPはカナダ Saskatchewan 州にある Jasen 加里プロジェクトのフェーズ 2 に 49 億ドルの投資を承認した。これは 2021 年 8 月に Jasen 加里プロジェクトのフェーズ 1 に 57 億ドルの投資を承認したことに続くものである。

Jasen 加里プロジェクトのフェーズ 1 は年間塩化加里 436 万トンの生産能力を有し、すでに 32%進捗して、2026 年後半に稼働する予定である。フェーズ 2 は今年から着工し、約 6 年をかけて、2029 年から稼働し、年間塩化加里生産能力 414 万トン。Jasen 加里鉱山は完成すれば、年間 850 万トン塩化加里を生産し、世界最大の加里生産基地と

なる。また、フェーズ3とフェーズ4も計画され、最終的に年間塩化加里生産能力1600~1700万トンになる構想である。

大手各社の営業業績

- * ノルウェーの Yara 社は第3四半期の業績を発表した。アンモニア生産量が12.5%増の172.2万トン、化学肥料生産量が10.0%増の506.2万トン。一方、アンモニア外販量28.8万トン、化学肥料販売量が14.1%増の645.9万トン。化学肥料の国際相場の下落で、収入が47.9%減の38億6200万ドル、EBITDAが62%減の3億9600万ドル、純利益が99.5%減の200万ドルしかない。
- * アメリカの CF Industries 社は2023年第3四半期の業績を発表した。アンモニア生産量が2%減の223.8万トン、尿素生産量が8.9%減の108.1万トン、UAN（尿素硝安液肥）生産量が26.6%増の174.9万トン。第3四半期の肥料販売数量が7.6%増の474.5万トンだが、肥料価格の急落により、売上高が45.2%減の12億7300万ドル、売上総利益率が9.9%低く29.6%、EBITDAが55%減の3億7200万ドル、調整後のEBITDAが54.3%減の4億4500万ドル。
- * 中国上場している肥料会社31社が発表した2023年1~9月の業績が散々たるものである。31社の中に4社だけが増収増益、ほかの27社が減収減益、そのうち6社が赤字に転落した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ポーランドの ORLEN グループ傘下の ANWIL 社は3番目の窒素肥料生産ラインの建設を最終段階に進み、2024年春に完成し、稼働すると発表した。この窒素生産ラインはポーランドの Włocławek 工場にあり、年間146.1万トン硝安、硝酸カルシウムなど硝酸系肥料の生産能力がある。完成すれば、ANWIL 社の肥料生産能力が倍増となる。
- * ノルウェーの Yara 社はイギリスのイースト・ヨークシャーに新しい化成肥料と生物刺激剤工場を建設することを発表した。Caddick Construction 社が施工を請負い、2025年末に完成し、稼働するという。
- * インドネシア Pipuk 社傘下の PT Pupuk Sriwidjaja Palembang (Pusri)社は Pusri IIIB 工場プロジェクトの建設を開始すると発表した。Pusri IIIB 工場はインドネシアスマトラ島南部 Kota Palembang 市にある PT Pusri 工業団地に建設、年間生産能力はアンモニア44.55万トン、尿素90.75万トンと計画されている。

- * 中国湖北華強化工社は建設中の尿素プロジェクトが最終段階に進み、11月末に完成して、12月に正式稼働されると発表した。石炭を原料にして尿素年間生産能力は70万トンである。これにより、2023年に中国4ヶ所の新設尿素プラントが完成し、合計330万トンの新規尿素生産能力の増加となる。
- * 10月17日、中国のAsia Potash社はラオス政府とラオスのカムムアン県の塩化加里生産能力増強プロジェクトに関する覚書を締結した。Asia Potash社はラオスのカムムアン県に加里鉱山を開発して、生産された塩化加里の約半分を中国に輸出している。2023年の塩化加里生産能力がすでに300万トンに達し、2025年に500万トンに増強される計画である。実現されれば、ラオスはカナダ、ロシア、ベラルーシに次ぐ世界第4位の加里生産大国となる。
- * ブラジルのPetrobras社とボリビアのYPFB社は計画中の3つ尿素プラントを建設することでほぼ合意している。この3つの尿素プラントはブラジルのTres Lagoas尿素工場とCuiabá尿素工場、ボリビアのPuerto Quijarroにある第2アンモニア・尿素工場である。3工場の年間尿素生産能力が450万トンで、ブラジル国内尿素需要量（約1200万トン）の40%をカバーすることができる。Petrobras社は国内新設の2尿素プラントの運営を管理し、Puerto Quijarro工場で生産する尿素もYPFB社から優先購入する。YPFB社は尿素生産に必要な天然ガスを供給するという内容である。

その他

- * 世界銀行傘下のIFC（国際金融公社）はモロッコのOCP社に2つの太陽光発電所の建設のために1億ユーロのグリーンローンを提供する。2つの太陽光発電所はモロッコのBin Jarir市とKhouribga市に設置して、合計で400メガワット・ピーク（MWp）の発電量、最大で100メガワット時（MWh）の蓄電池を備える。これはIFCの今年2回目のOCPへのグリーン融資である。2023年4月、OCPの1.2ギガワット・ピーク（GWp）太陽光発電プログラムの第1段階の一環として、IFCはすでに同じくBin Jarir市とKhouribga市に4つの太陽光発電所の建設に1億ユーロの融資を提供した。OCP社は太陽光発電所の電力を低炭素肥料の生産に使い、発展途上国および新興国における持続可能な食料生産、価格の安定、食料安全保障の向上を確保するのに役立つという。
- * ポルトガルのMadoqua社はSines工業団地にグリーンアンモニアプラントを建設することを発表した。このプロジェクトはアメリカKBR社のグリーンアンモニア製造技術を採用し、フェーズ1では1200トン/日、フェーズ2では1500トン/日を計画している。

- * アメリカ農務省（USDA）は国内の肥料生産拡大に向けて、5000万ドル以上の資金を用意し、国内の肥料製造を促進し、革新的な肥料技術を支援し、農家のコスト削減を支援する17の新規プロジェクトに提供することと発表した。また、肥料生産拡大プログラム（FPEP）を通じて、利用できる低利子の資金を最大9億ドルに増額する。すでに計33件のプロジェクトに総額1億2,100万ドル以上を貸し出した。

- * スイスの大手メタノールメーカーProman AG社は三菱商事と共同で、アメリカルイジアナ州レイクチャールズのProman所有の工業団地に超大規模の超低炭素アンモニア施設の建設について覚書を締結した。提案されているプロジェクトは、炭素回収および隔離技術を組み込むことにより、年間約120万トンブルーアンモニアを生産し、クリーンな燃料として販売する内容である。

- * 10月18日、カナダ港湾労働者の組合 International Longshore and Warehouse Union（ILWU）は10月22日からセントローレンス海路（大西洋から五大湖のスペリオール湖までの運河網）にストライキを行う通知を出した。これによりセントローレンス海路が閉鎖され、カナダ東部のサプライチェーンが寸断される恐れがある。カナダの肥料メーカーと流通業者が加盟している肥料カナダは政府とセントローレンス海路管理公社（SLSMC）およびILWUに対して翌春季に向けて農家が肥料を確実に入手できるようにストライキを中止するための速やかな合意に達するよう求めている。

ILWUは7月に2回もカナダ西部の港にストライキを主導し、バンクーバー港を含む計30港の操業を停止させ、バンクーバー港を経由する加里の輸出が一時止まり、アジアの加里市場に悪影響を及ぼした。

- * オーストラリア政府はAvenira社による北部准州のダーウィン市近辺の国立公園にあるWonarahりん酸塩プロジェクトの採掘作業を許可した。りん鉱石の採掘数量4万トン、りん酸鉄リチウムイオン電池のDSO原料とする。